

令和3年度 県立土浦第三高等学校自己評価表

No 1

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性や自立心を伸ばし、「生きる力」や「豊かな心」を育み、社会に貢献できる人材を育成する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>「文武両道」を推進するとともに、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた心身ともに健全な人材の育成を目指して全職員が一丸となって教育活動に取り組み、しっかりと進路実績を残すことができた。</p> <p>今後もさらに実績を残し、地域社会からの期待と信頼に答えることができるようなお一層努力する。</p>	<p>確かな学力の育成を図り、自らの力で未来を切り拓く知性や教養など、活用できる能力を養う。</p>	<p>① 確かな学力の定着を図り、国公立大学や難関私立大学への進学実績をさらに伸ばす。</p> <p>② 学習意欲の高揚に努め、自発的学習の習慣化と家庭学習の確立を図る。</p> <p>③ 個別面談及び保護者面談を充実させ、個々の学校生活の目的や進路希望を明確にし、自己実現に向け主体的に取り組む態度を育成する。</p> <p>④ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。</p> <p>⑤ 希望する進路の実現に向けた課外活動の充実を図る。</p> <p>⑥ 生徒個々の興味や関心、適性等に応じた進級時の適切なコースないし学科の選択を実施する。</p> <p>⑦ 商業関係学科においては、専門科目の学習内容の充実を図り、資格取得の実績向上と進路の実現を目指す。</p>	A
	<p>文武両道を推進すると共に、様々な体験や学習活動を通し、心身ともに健全で豊かな人間性を養う。</p>	<p>① 特別活動等の充実を図り、活力ある学校生活の創造に努めるとともに、調和のとれた生徒を育成する。</p> <p>② 生徒の規範意識を確立し、本校生としての自覚とマナーを心得た生徒を育成する。</p> <p>③ 道徳教育を推進し、人間としての生き方や在り方に関する指導の充実により、豊かな人間性・社会性を身に付けさせる。</p> <p>④ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図るとともに、様々な学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。</p> <p>⑤ 校外活動やボランティア活動への積極的参加を推進し、社会において必要な実践力を育成する。</p> <p>⑥ 文武両道を推進し、知育、徳育、体育のバランスのとれた学校運営を実践する。</p>	B
	<p>キャリア教育を充実し、望ましい職業観や勤労観、社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。</p>	<p>① 生徒個々の自己理解と職業に対する意識の高揚を図り、希望や適性に応じた進路実現のための確かな支援を行う。</p> <p>② 生徒の主体的な進路選択及び目標達成を支援するため、進路相談・学習相談・就業体験の充実を図る。</p> <p>③ 就職試験や面接試験対策等の充実を図り、具体的かつ実践的な能力の向上を図る。</p> <p>④ 適切な進路指導実践のため、本校の現状分析や教員の研修機会を充実させる。</p> <p>⑤ 探究的な学習を通して課題発見・解決能力の育成を図り、変化の激しいこれからの社会を生き抜く力を育成する。</p>	A
	<p>普通科と商業関係学科の併設校として、地域の期待に応え信頼される学校を目指す。</p>	<p>① 各学科それぞれの目標の実現に向けた授業内容の充実を図り、関係機関との連携にも努める。</p> <p>② 学校のさらなる発展に向け、学校評議員・保護者・地域住民等からの情報や意見を聴取し学校運営に活用するとともに、地域の関係機関との連携強化を図る。</p> <p>③ 中学校への訪問を実施し、本校の理解の促進を図る。</p> <p>④ 保護者や地域住民との情報交換を積極的に行い、相互の理解と協力体制の確立を図る。</p>	A
	<p>働き方改革を推進し、心身ともに健康的で働きやすい職場環境の構築を目指す。</p>	<p>① 業務内容の見直しと業務量の軽量化を図り、勤務時間外在校時間の短縮を図る。</p> <p>② 休暇を取得しやすい職場環境の醸成に努める。</p> <p>③ 保護者や地域住民へ積極的に情報を公開し、現状の理解と協力体制の構築を図る。</p>	A

三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	生徒一人ひとりの個性や能力が発揮され、未来を主体的に切り拓く力や豊かな人間性を身に付けた社会に貢献できる人材。	B	A 教科指導ならびに学校行事を通して、主体的に学び続ける豊かな人間性を身に付けた人材育成に努める。 進路希望を実現するための新教育課程を推進する。 入学志願者増に向けた広報活動をさらに充実させる。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	自らの興味・関心や進路希望に応じて生徒が学びを選択し、知識・技能はもちろん、学ぶ意欲や主体的に判断・行動してよりよく問題を解決する資質・能力などの確かな学力を身に付け、地域社会を輝かせる心身共に健全な生徒の育成。 ※ドサン・プライド(Dream/Opinion/Seek/Active learner/Never give up)	A	
	「入学者の受入に関する方針」(アドミッション・ポリシー)	目標や向上心を持って学習に励むとともに、部活動等や生徒会活動、学校行事などにも積極的に取り組み、充実した高校生活を送る意欲のある生徒。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	生徒が自ら学び、意欲的、主体的に学習活動に取り組む授業を目指す。	授業内容を充実させるため、事前の教材研究を十分に行う。	A	動画配信等のオンライン授業への対応を強化する。自ら学ぶ姿勢の育成と、さらなる授業の質の向上を目指す。		
		授業ごとに、生徒が進んで学習できたかどうか指導内容を振り返り、授業の工夫改善に努める。	B			
		進路希望に応じた学習指導の実践と授業の質的向上を目指す。	A			
教科	国語	基礎学力の向上及び言語能力の育成を図る。	小テストや週末課題など、きめ細かい評価を実施し、基礎学力の向上を図る。	A	ICTを活用した授業展開を一層充実させるため、科会で指導例を発表し、研鑽を積む。	
		教材について理解の深化を図る。	調べ学習など、授業内での言語活動を工夫し、言語活用能力の育成を図る。	A		
		表現力の育成を図る。	社会において必要な表現力を身に付けさせることができるよう、授業の工夫を図る。	A		
	地理歴史	基礎学力の向上と進路目標の達成を図る。	学力の向上と家庭学習の定着を図るため、休業中の課題の工夫をはかる。	B	・歴史的思考力や資料読解力を高める授業展開の工夫。 ・共通テストを見据えた対策の充実とスタサブの効果的活用を進める。	
			普通科・商業に関する学科それぞれの特徴に応じ、他教科との関連の中で授業内容の精選を行う。	B		
		地歴科への興味・関心を高める。	ICTの効果的活用、授業改善および教材・課題を工夫する。	B		
	公民	基礎学力の向上を図る。	プリントやワークを用い、作業学習や反復学習などを行う。	B	・共通テスト対策としての資料読解力の向上をはかる。 ・18歳成人に対応した授業展開。	
			公民科への興味・関心を高め、主権者としての自覚を高める。	ICTの効果的活用、授業改善および教材・課題を工夫する。		B
			新聞その他の時事問題をテーマとした集団学習を行い、多面的に学習意欲を喚起する。	A		
	数学	基礎的・基本的な知識・技能の習得と学習意欲の向上を図る。	副教材やプリントなどを活用し、身近なところからテーマなどを取り上げる。	A	デジタル教材を各単元で効果的に活用できるよう、ICT機器の活用も含めて継続して教材研究及び事例等の情報交換に努めていく。	
			小テストや課題を実施して家庭学習習慣の確立と、基礎学力の定着・向上を図る。	B		
		生徒の実態に応じた指導と充実した授業展開を工夫する。	授業において、数学と生活との関連のある事例・問題を提示し、数学の有用性や良さに気づかせることで、数学に対する関心や意欲を高める。	B		
	理科	教授内容をより深く理解できるように授業展開を改善・工夫していく。	副教材やプリントなどを活用するとともに、課外や補講等の実施や定期考査の問題の精選を図る。	A	・ICTをの更なる活用法を考え、場所を選ばず、自然科学に触れることができる環境を整備する。 ・観察・実験における評価方法の見直し。	
			新課程の授業展開や教材研究、前年度の事例等の情報交換を充実させる。	B		
		自然科学のすばらしさを実感できる授業の実施に努める。	意欲的に学習活動が行えるよう、授業の進め方や説明および発問方法について工夫するとともに、新たな教材・教具を開発する。	A		
	保健体育	運動の楽しさや喜びを味わうことができる授業を展開する。	個々の授業内容に即したプリント・課題等を準備し、基礎学力の定着を図るとともに、大学入学共通テストにも対応できるような授業を展開する。	B	・新学習指導要領に則した評価規準のブラッシュアップ。 ・新型コロナウイルス感染拡大を見据え、個人で行うことのできる運動の拡充。ゴール型球技(コンタクトスポーツ)の指導法の幅を広げる。	
			基礎・基本的な技能を身につけ、各運動種目の特性に触れることで、運動に対する学習意欲の向上を図る。	A		
		健康・安全について理解を深めることができる授業を展開する。	体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度や、互いに教え合う能力を養う授業を展開する。	A		
		仲間と互いに励まし合いながら運動することで主体的・対話的に学び、運動量の確保・体力の向上を図る。さらに、試合において定められたルールを遵守する態度の育成を図る。	A			
		身近な話題や様々な視聴覚教材、ICTを活用・工夫し、集団や個人の健康を理解させ、生涯を通じて自らの健康を適切に管理・改善していく実践力の向上を図る。新型コロナウイルス感染拡大防止対応等を実施し、記録する。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 科	芸術	芸術を愛好する心情を育てる。	幅広い活動を通して芸術への関心を高め、主体的な学習態度の育成を図る。	A	・授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるとい実感を持てるよう、指導の改善・充実を図る。
			多様な表現の工夫ができるよう、基礎的・基本的な技術の習得を図る。	A	
			授業や学校行事、各種コンクール等への参加を通して、発表の場をつくと共に鑑賞の能力を高める。	B	
		美的体験をより豊かに味わえるように、授業の改善に努める。	授業内容の充実を図るため、教材研究や事前準備を十分に行う。	A	
			教員自らが常に芸術的な資質の向上に努める。	A	
			教科内での連絡を密にし、授業における問題点等を話し合う。	A	
	外国語	基礎学力の向上と定着を図る。	ICTの効果的活用、授業改善および教材・課題を工夫する。	A	・speaking やwritingなどのアウトプット活動における積極的なICT機器の活用を図る。 ・実生活にと関連するコミュニケーション活動の充実を図る。
			基礎学力の定着を図るための小テストや課外授業を実施する。	A	
			教室外での英語の使用を促すような課題を設定する。	B	
			ALTの効果的活用を行う。	A	
			外部英語検定試験等の受検を支援する。	A	
		コミュニケーション力を育成する。	英語運用力および論理的思考力を育成する。	A	
			コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	A	
			異文化理解を促すための授業展開を工夫する。	B	
	家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身に付ける。	家庭生活への興味・関心を引き出す教材の活用により、深い学びにつながる授業を工夫し展開する。	A	・新型コロナウイルス感染予防対策を行ったうえでの実習の計画実施、生徒主体の学習活動の工夫。
			主体的・対話的な学習活動を通して、持続可能な社会の実現に向けた実践的な態度の育成を図る。	B	
		作品の完成・提出により達成感を持たせる。	実験・実習などを通して自立した生活者に必要な各種技能・知識の向上を図る。	A	
	情報	情報に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させるとともに、問題解決能力の向上を図る。	現代の情報化社会で生き抜く力を育むよう、情報モラルに関する指導を充実させ、知識の向上を図る。	B	・生徒が自ら学ぶ意識を高める授業を充実させる。
			コンピュータの基礎的な操作の定着を図り、問題解決型学習の充実を図る。	A	
			言語活動の充実を図り、グループ活動等を取り入れるなど、生徒が自ら学ぶ意識を高める授業を充実させる。	B	
商業	基礎的・基本的な知識や技術の定着と向上を図る。	課題等の提出を通して生徒一人ひとりの学習到達度を把握するとともに、個々の学習到達度に応じた指導を工夫改善し、確実な学力を身に付けさせる。	A	資格取得と実社会、実生活と関連した学びのバランスを研究。	
		基礎的な知識や技術の定着に重点を置き、資格取得に関する指導とのバランスを図る。	B		
	他教科・各学年・部等との連携を図る。	選科指導、進路指導、課外授業等を実施するにあたり、定期的に会議等を実施し、効率的な指導内容の研究・実施に努める。	A		
	進路希望の実現に向けた効率的な指導を実施する。	言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成を図り、能力や適性、興味・関心、進路の多様化に対応した指導研究を充実させる。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	学力向上と希望進路の実現に結びつく教育課程の編成や運営を行う。	教育課程を点検し、生徒の学力向上と進路実現に結びつく創意に満ちた教育課程の編成を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程が生徒の学力向上と進路実現に結びつくものとなるよう、定期的にチェックし必要に応じて改善する。 ・授業時数確保と働き方改革に向けて学校行事を精選し、効果的な教育活動に繋げる。 ・学校説明会や公開授業、ホームページ等により、更なる効果的な学校の広報活動に努める。 ・ICTの活用法について検討を重ね、業務の効率化と生徒の効果的な学習活動に繋げる。
		授業時間の確保のため学校行事を精選し、授業と学校行事の効果的な実施を目指す。	B	
	全学年共通に実施できる学習体制の構築を図る。	朝学習や放課後課外及び検定対策課外等を計画調整し、生徒が主体的に参加できる学習の場の確保に努め、学力向上と検定資格取得に繋げる。	B	
		学科及び学年の特性を踏まえ、定期考査、課題・実力考査を適切に計画実施し、学習意欲の高揚に努め、確かな学力の定着を図る。	模擬試験や検定試験等も視野に入れた授業を展開し、希望進路の実現に向けた学力の向上を図る。	
	生徒面談及び保護者面談の充実を図る。		生徒面談を通して生徒の学習意欲や進路への意識を高める。また、学習習慣の定着と受験に対応できる学力の定着を図り、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう支援する。	
		保護者面談を通して、生徒の学校生活・家庭生活の様子や進路希望等について家庭と情報を共有する。また、生徒の希望進路の実現に向けて必要な情報を提供し、家庭においても学習意欲や進路意識の更なる高揚を図る。	A	
	本校の目指す教育活動の広報のため、積極的な情報提供を図る。	中学校訪問や学校説明会、公開授業等において、本校の教育活動を公開することにより、普通科と商業関係学科の併設校ならではの魅力を広く周知し、より一層の本校理解の推進に務める。	B	
		充実した学校生活をイメージできる学校紹介パンフレットを作成する。	A	
		ホームページを活用し、本校の特徴や最新情報を積極的に公開する。	A	
	日常業務の円滑な実施に努める。	コンピュータやネットワークの環境を整え、管理・運営を適切に行う。	A	
		校務支援システムを円滑に運営できるよう管理し、使用上の必要事項を職員に周知する。	A	
	生徒指導	規範意識の向上を目指す指導を実施する。	登校指導を教職員全員で年間を通して実施し、きちんとした身だしなみを徹底させるとともに、遅刻防止、挨拶の励行にも努めさせる。	
生徒が健康で安全な生活を送れるように努める。		交通講話、交通指導等により交通マナーを向上させ、事故の未然防止にもつなげる。	B	
		段階的指導、学校内外の巡視を通じ、自己指導能力の向上と問題行動の未然防止に努める。	B	
授業や講話を通じ、薬物の怖さを認識させ、問題行動の未然防止につなげる。		B		
教育相談の体制を充実させ、健康に不安がある生徒の支援に努める。	各学年と連絡を密にし、健康に不安がある生徒の掌握に努める。保健厚生部とも連携し、教育相談等により生徒の不安を解消するための支援に努める。	B		
進路指導	生徒一人ひとりの進路実現を支援するキャリア教育体制の確立を図る。	各学年の適切な時期に進路研究や進路説明会を実施することによる生徒の進路意識の高揚を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就職試験や推薦入学試験における小論文面接指導体制の在り方の検討。 ・校内推薦規定や細則と運用の必要な見直し。
		最新の進路データ・資料等を利用したホームルームを展開する。	B	
		各学年や他の分掌と連携したキャリア教育を推進する。	B	
	個別指導による進路指導の充実を図る。	個別面談による進路研究支援と学習支援を実施する。	B	
		進路希望別進路ガイダンス及び特別講座等並びに表現力養成講座及び面接・小論文対策を実施する。	A	
	学力向上のための支援をする。	課外授業・模擬試験の充実を図る。	A	
就職支援の充実を図る。	就職セミナー等を実施するとともにインターンシップ制度の充実を図る。	B		
教員の進路指導力向上を図る。	教員研修に役立つ情報等を提供する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	部活動への生徒の自主的・自発的な取り組みを促進し、改革を図る。	部活動を通して健全な体力と社会性を育成し、協調と連帯の精神を養うようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・内規改定 ・部活動数の精査 ・生徒会・生徒主体の行事案等、自主的な態度の育成。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止への柔軟な対応。
		部活動の環境を整えながら、より一層活発な活動が行われるようにする。	B	
	生徒会活動や各種委員会活動の活性化に努める。	生徒会活動や委員会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員として学校生活づくりに自主的に取り組む態度を育てる。	A	
		ホームルーム活動や学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。	B	
	ホームルーム活動や学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。	ホームルーム活動の時間を活用し、豊かな心の教育を充実させる。	A	
		学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。	A	
コロナ禍でも実施可能な活動の工夫を図る。	新型コロナウイルス感染拡大防止対応等を工夫し、実施する。	A		
	生徒会を中心に、コロナ禍での実施可能な活動を考え、主体的に行事内容の立案策定・実施を図る。	A		
保健 厚生	保健管理・保健教育を充実させる。	生徒が心身の健康に関心を持ち、常に自らの生活状況を見つめ、自ら健康の保持増進を図れる姿勢を身につけさせる。心身の健康に配慮が必要な生徒について教職員間で共通理解を図り、必要な配慮を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策を継続するとともに、3密を避けた昼食のとり方について検討する。 ・清掃状況の点検の仕方を工夫し、環境美化委員会を中心とした校内の美化活動に努める。 ・十分な感染対策をしたうえで避難訓練を実施するとともに、生徒の防災意識を高める。
	環境美化につとめ、安全で快適な教育環境を整えられるよう組織を編成する。	清掃状況を定期的に点検し、適切な指導を行うことにより清掃の徹底を図る。清掃用具等の補充・交換を円滑に行う。新校舎での生活環境の整備に努め、より快適な生活ができるようにする。	A	
	防災意識の高揚に努めるとともに、避難計画の職員・生徒への周知徹底を図る。	HR等を利用して、生徒の防災意識を高める。火災や地震等において、安全かつ速やかな行動ができるよう避難訓練を計画実施する。教職員の協力体制を確立し、保護者や地域との連携を図る。	B	
	個に応じた支援体制の充実を図る。	他の分掌、学年とも緊密に連絡を取り、教職員全体の協力体制を確立する。保護者や外部機関との連携を図る。	B	
図書 視聴覚	図書館の環境整備に努め、学習・読書活動の支援につながる図書資料の充実を図る。	図書資料を適切に購入、配列し、利用しやすい環境を整える。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究」や各教科の学習に合わせた資料提供。 ・生徒図書委員会・放送委員会の主体的活動活性化と支援。 ・文化創出拠点としての展示・企画・イベントなどを通じ、人と人のつながりや展開を生み出す。
		探究や小論文対策など、各教科・分掌等と連携し、生徒や教職員のニーズに合った資料収集に努める。	A	
		生徒図書委員会と協力し、生徒や教職員にとって親しみやすい図書館作りに努める。	A	
	生徒および職員の積極的な図書館利用を促す。	図書だより等の印刷物や掲示物を工夫する。	A	
		生徒図書委員会がさまざまな企画を主体的に企画運営し、図書館利用が増加するよう、支援する。	A	
行事等での放送を円滑に行う。	学校行事等において放送が円滑に行われるよう配慮する。	B		
渉外	PTAの各行事の内容充実に努め、保護者への積極的な参加を呼びかけことにより家庭との連携を密にする。	PTA総会・支部会などへの参加を積極的に促し、内容や資料の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA広報誌を、web上で配信。 ・コロナ禍におけるPTA活動の模索。
		生徒の学校生活に保護者が接する機会として、授業見学や登校指導を計画する。		
		学校の教育活動への理解や支援を得るために、PTA広報紙「岩田ヶ丘」を年2回発行する。	B	
		会員相互の理解と親睦のために、「PTA親睦会」や「PTA研修」などを実施し、PTAの組織の充実と結束を図る。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1 学年	学習環境の整備と希望進路の実現に向けた指導を推進する。	明るく、何事にも意欲的に取り組むことが出来る環境を作る。	A	B ・基本的生活習慣を確立させる環境を整える。 ・将来の進路を意識させ、日々の学習をより充実させる生徒支援態勢を他と連携して整える。 ・タブレット等をより活用し、生徒の学習環境や家庭学習の充実をはかる。 ・英語検定や全商検定などの各種検定を通して、各自の目的意識をより一層高める。 ・学校行事や学年行事等を通して、他者との協調性や公德心、奉仕の心の育成をはかる場を設定する。
		自身の将来像をしっかり見据え、進路実現ができるよう支援する。	B	
		礼節を重んじ、社会貢献ができる人間形成を目指す。	B	
	基本的生活習慣の早期確立を図る。	規則正しい生活習慣を身に着けさせる。	B	
		きちんとした挨拶や適切な言葉遣いや態度をとれるよう常に意識させる。	A	
		時間を守り、有効に使う習慣を定着させる。	B	
	学習習慣の定着を図る。	毎日の授業にしっかりと取り組み、基礎学力を着け、家庭学習習慣の定着を促す。	B	
		面談や講話等を通して、学習・進路に関する情報を効果的に発信し、目的意識を高める一助とする。	A	
		朝学習、放課後の課外により、基礎学力を定着させ、発展的な学習へと結びつける。	A	
	進路の適切な導きを図る。	休校期間中は、オンライン教材や課題などを活用し生活の安定と学力の維持につとめる。	B	
		進路に対する高い目標を掲げ、その実現に向けて継続して努力させる。	B	
		希望進路や自分の適性にあった分野を選択させる。(普通科)	A	
道徳教育の充実に努める。	希望進路や自分の適性にあった科を選択させる。(商業に関する学科)	A		
	自己理解や他者理解を深めつつ、人間としての生き方について考えさせ、豊かな心と生きる力を養成する。	B		
	視野を広げ、他者との協調性を高め、社会に貢献できる人間の育成を図る。	B		
第2 学年	学年活動の様々な場面を通して進路実現のための指導を進める。	明るく何事にも意欲的に取り組むことが出来る環境を作る。	A	B ・進路実現に向けて、適切な進路・学習指導と各分掌との連携の強化をはかる。 ・18歳成人に対応した指導の充実をはかる。 ・修学旅行の代替案の実現や生徒会行事の実施を通して、帰属意識を高める。 ・ICTなどを活用し、生徒の学習習慣を高める。 ・普通科と商関科の垣根を越えた進路指導の実現。 ・模擬試験や検定試験を軸とした学力向上。
		自身の将来像をしっかり見据え進路実現出来るよう支援する。	B	
		礼節を重んじ社会貢献出来る人間形成を目指す。	B	
	基本的生活習慣の確立・発展させ、自立した社会人の育成を図る。	自立した大人としての自覚を持たせ、規律ある行動を求めると共に、学校生活に意欲的に取り組ませる。	B	
		保護者との連携を密にしなが、服装・頭髪指導及び欠席・遅刻指導の徹底を図る。	A	
		修学旅行をととして、平和への意識、社会とのつながりを意識させ、社会性の育成を図る。	E	
	学習習慣の定着を図る。	徐々に生徒会活動等の中心になることの意識を高め、責任感を持たせる。	C	
		面談を通して、効果的な学習方法を提案し、家庭での学習習慣の定着を促す。	A	
		授業や集会等を通して、学習・進路に関する情報を効果的に発信し、目的意識を高める一助とする。	B	
	進路の適切な導きを図る。	朝学習、状況に応じて課外等を実施することにより、基礎学力を定着させ、発展的な学習へと結びつける。	A	
		スタディサプリを活用し、自学のできる環境整備を整え、家庭学習効率の向上を目指す。	B	
		一人ひとりの進路実現に向け、適切な目標設定をさせ、目標に向けた道標を構築させる。	A	
第3 学年	進路実現に向け、希望進路に応じた学習指導を行う。	進路実現に向け、学力の向上・資格等の取得するなど3学年に向けた準備意識を向上させる。	A	A ・進路指導における面接指導等を学校全体で取り組む体制への改善。 ・校内推薦規定や特編授業、共通テスト後の授業展開、学年末考査の取扱いなどの継続的な検討。
		希望する進学や就職に対して、最後まであきらめずに取り組める生徒の育成を図る。	A	
		共通テストや私立大学・国公立2次試験にも最後まで対応しうる学習指導を行う。	A	
	生徒本人が納得した進路決定を目指す。	ICT教材を利用した在宅での自学自習や、放課後や週休日における学校での学習環境の充実を図る。	B	
		自らの進路決定に向けて、自ら課題を発見し解決していける力を身につける	A	
		学級担任・教科担当による個人面談・個別指導等を通して、適切な希望進路決定を目指すように促す。	A	
	社会の一員になることを意識し、自立自活できる人間性の育成を図る。	公務員・就職・看護説明会の充実、面接指導、志望理由書の書き方指導等を早期から適宜実施する。	A	
		生徒一人ひとりに最善を尽くし努力できる環境を作る。	A	
		学年全体での協力体制を確立し、和を持って物事に対応する雰囲気を作る。	B	
	自立した大人としての自覚を持たせ、規律ある行動を求めると共に、学校生活に意欲的に取り組ませる。	A		
	時代に応じた情報収集力・思考力・交渉力・判断力を高め、卒業後に社会の一員になる自覚を持たせる。	B		

※ 評価基準 A: 充分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない